マンガの居場所

宮本 大人

『りぼん』（集英社）は、『なかよし』（講談社）と並んで、現役最古参の少女マンガ雑誌の一つである。戦後のマンガ史を眺める上で欠かすことのできない存在だ。

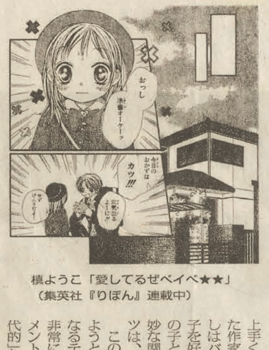
単に歴史が長いというだけではない。この少子化のご時世に、小学5年生から中学1年生程度の女子を主なターゲットにして、公称発行部数135万部（日本雑誌協会のホームページに昨年7月末に掲載されたデータによる）というのも、その11歳から13歳までの女子人口が約190万人であること（平成12年国勢調査のデータによる）を思えば、驚異的なことだと言わねばならない。マンガの研究をしている以上、チェックしておかなければならないのは当然である。

とは言え、32歳、もうすぐ子供もできる既婚男性の私が、槙ようこの「愛してるぜベイベ★★」に、素でハマってしまっているのは、ちょっとおかしいわけである。4月号から始まったばかりのこの作品に、何を私は毎回毎回ちょっと「きゅん」としてしまったりしているのか。

学校で一番モテて、どんな女の子とも軽くチューくらいしてしまう17歳の主人公が、失踪してしまった叔母さんの5歳の娘の面倒を見なければならなくなる、というお話なのだが、おそらく『りぼん』史上初の、男の子が主人公の連載作品でもある。

チューはもちろん、そりゃもっと色んなこともとっくに済ませてます的な、モテる自分に何の違和感もなく暮らしてるらしい主人公片倉結平が、初めて扱いに戸惑う女の子が、この姪っ子というわけで、そのあわてっぷりと懸命さがかわいい、のだ。

それに加えて、夫の死で子育てに自信を無くしてしまった母のことを、自分のことが嫌いになってしまったのではと不安なゆずゆちゃんがまた、けなげでかわいい。32歳の親父予備軍の父性本能だか母性本能だかも刺激されまくりなわけである。およそ私とは住んでる世界の違うモテ男に、思わず感情移入してしまうのは、そのせいだろう。



槙ようこ「愛してるぜベイベ★★」（集英社『りぼん』連載中）

■かっこいいだけじゃだめ■

槙ようこは、デビュー以来ガンガン上手くなって頭角を現してきた作家だ。去年連載の『あたしはバンビ』では、同じ男の子を好きになってしまった女の子と男の子（！）の間の微妙な関係を描いて、おっコイツは、と思わせた。

この「ベイベ」も、重くしようと思えばいくらでも重くなるテーマを、今のところ、非常に良質のエンターテインメントに仕上げている。「現代的」な「病」だの「不健康」だのにまみれながら、最終的には「健康」を選ぶ意志が、感じられる。これって実は、今の女性の描き手の中ではすごく貴重な資質だと思う。

この作品の面白さの仕組みは、SMAP以後のジャニーズアイドルのバラエティ番組に似ている。香取慎吾の「慎吾ママ」とかを思い出してもらえればいい。アイドルも少女マンガの憧れの男の子も、もう、かっこいいだけじゃだめなのだ。かっこいい以外に、恋愛以外に、何ができるの？　というシビアな視線が、『りぼん』のような王道少女マンガ雑誌にまで、本格的に導入されるようになったのである。これは、性愛描写の過激化なんかとはレベルの違う、もっと重要な変化なんじゃないだろうか。

（みやもと・ひろひと＝マンガ史研究）

佐原真さんを悼む

「華」と心のある考古学者

春成秀爾さんに聞く

弥生時代研究の第一人者で、前国立歴史民俗博物館長の佐原真さんが10日亡くなった。研究の最先端を疾走し、その成果の普及にも人一倍力を注いだ学問人生だった。佐原さんの業績と人柄を後輩の考古学者、春成秀爾・同博物館教授に語ってもらった。【構成・伊藤和史】

00年11月11日、旧石器発掘ねつ造問題発覚直後、関連座談会に臨む＝毎日新聞東京本社で

20世紀後半の50年間で、考古学者としていちばん「華」と心のある人だった。彼のいるところ、いつも学問中心の話題で明るく楽しい雰囲気があふれていましたね。

若い時は土器の紋様の細かい変遷や、銅鐸の編年研究で実績を上げた。40歳をすぎて、食べ物、環境、戦争、性差別の問題など、考古学の幅をどんどん広げていった。

それができたのは、他の分野の一線の人ともすぐ親しくなれたから。最先端の情報を仕入れ、相手の業績をきちんと評価したうえで自分の解釈を加えるから、誰もが協力しました。

昨年5月に入院した時には、もうがんが転移して手術できない状態。医師から「自分がやりたいという気持ちが命を延ばしますよ」と言われ、それを「自己治癒力」と呼ぶ、と僕に説明するのです。「あなたはこれまでも〝自己チュー〟でしょ」と冷やかしたものです。

突然、電話してきて「叉状研歯（切歯に刻み目を入れてフォークのように加工する縄文時代の風習）について、2行で述べてくれ」と、そういう注文をつける。忙しい相手の生活に飛び込んできて、引っかき回す。それを誰にでもやる。でも、間違いのないところに意見を聞くから、彼の書いたものはどれも権威ある内容になった。

自己チューでも、単なる自分中心とは違う。人の仕事には手も口も出すのです。原稿を書いていると「見せろ、見せろ」と勝手にコピーをとっていく。僕はドイツ語の文献が使えないが、彼は読めるので5～6冊探してきて訳し、「どう使うかは自由だけど」と渡してくれたりもしました。

奈良国立文化財研究所時代に訪ねる時は、怖くもあり緊張した。机の上に全国の最新情報がどんどん集まってくる。それを「どうぞ」とコピーさせてくれる。こちらが不まじめだととてもつき合えない相手でした。

でも、決して偉ぶることがない。むしろいつも周りに心を配っていた。初めて会ったのは京大の研究室で、彼が大学院生、僕が大学入学前。数十年後その話になり、「僕はあなたに親切でしたか」と気にしている。病床でも「今は痛くない」と、よくうそをついていました。

今年出た『日本考古学事典』（三省堂）は、彼と共編者の田中琢さん（前奈良文化財研究所長）ならではの発想の事典で、30年、いや50年は凌駕できないと思う。人とモノが緊張しながらも、親密な関係にあった20世紀後半のよき時代の考古学を総括している。若い研究者もそう簡単には越せない。学問には精密さが必要だが、それだけではつまらないものになる。この事典には血と心が通っています。

医師から余命数カ月と宣告されてから、1年2カ月生き、その間に著書・編著書を6冊刊行、論文を数編書きました。

この7日、都出比呂志さん（大阪大教授）が見舞った時のこと『古代史の論点』（小学館）の一冊『女と男、家と村』を二人で編集した間柄なのですが、佐原さんはその「男と女」ではないタイトルが気に入っていて「これからはジェンダー（社会・文化的な性）の考古学に進んでいかなければいけない。ぜひ引き継いでほしい」と話し始め、15分間止まらなかった。前夜、危篤だったのに、どこにそんなエネルギーがあるのかと驚いてしまいました。（談）

日本文化を語り合う国際シンポ

19、20日に東京で

国際シンポジウム「これからの日本～世界の日本学の視点から」が19、20の両日、東京都江東区青海の東京国際交流館で開かれる。日本国際教育協会と神戸大の共催。日本文化の継承と変容を、世界の日本研究者や留学経験者が探る。

19日は、13時半から河合隼雄・文化庁長官の「日本神話の中空構造」と題した基調講演など。20日は、9時半から厳安生・前北京日本学研究センター所長らが討論する。

入場無料。ホームページ（http://www.lit.kobe-u.ac.jp/bungakubu/kokusaisympo.html）から事前に申し込む。問い合わせは、078・803・5501（神戸大文学部国際シンポジウム実行委員会）。

副理事長に作家の坂上弘さん

日本文芸家協会

日本文芸家協会（黒井千次理事長）の副理事長に作家の坂上弘さんが決まった。今月9日付で任期は2年。7月定例理事会で承認された。

ダブルクリック

料理嫌いの言い訳

唯川　恵（作家）

食べることは大好きなのだが、はっきり言って、料理するのは嫌いな方である。

それには、私なりの理由がある。弁解ととられても仕方ないのだが、これには高校時代に経験した、あるテストが影響している。

当時、私の通う高校には、調理に関する検定試験のようなテストがあった。そのひとつが、決まった秒数内に一ミリ以下の薄さのきゅうりの輪切りを、百枚切らなければならないというものだった。

私は自信があった。

そのテストの手慣らしの練習で、私はいつも自宅でしているように、リズム良くきゅうりを輪切りにした。ところが、それを見ていた先生から注意を受けてしまった。

きゅうりを押さえる手の置き方が違うというのである。基本は、きゅうりの切断面に、人差し指から小指までをそろえて平行に、軽く曲げて置かなくてはいけない。自己流の私は、親指を切断面と平行にし、四本の指をきゅうりに直角に置いて切っていた。

先生から、それだと減点になるので、テストではゆっくりでもいいから基本通りに切りなさいと言われた。

それでも自分のやり方で、と迷った。でも結局、テスト本番では先生の指摘通り、基本通りに指を置いて切った。

その結果、やはり枚数が足りなくてテストに落ちてしまったのだ。それ以来、料理に対する情熱が冷めてしまった。

以前、こんな話を聞いたことがある。大リーグで活躍している野茂投手は、あのトルネードと呼ばれる変則的な投球フォームを、基本に沿って変えるように、と指摘されてもガンとして受け入れなかった。それが、現在の活躍に繋がっているのだと。

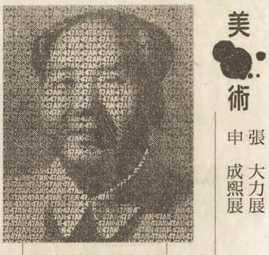
私もあのまま「変則的」な包丁の使い方を押し通していたら、きっと料理好きになったに違いない、と思うのは、やはり弁解かも……。

美術

張大力展

申成熙展

視線をそそる独自の作法



張大力の作品

張大力は、中国民主化運動史上の悲劇といわれた天安門事件（1989年）を直接経験し、深い挫折を余儀なくされた美術家の一人である。今なお彼の作品からにじむ挑発的な反抗心やほの暗い悲劇的色彩は、事件からこうむった心傷と無関係とは思えない。たとえばよく知られるのは首都・北京の、まさに取り壊されようとしている古い家屋を舞台とした作品だろう。

どこの現場でも張は、解体家屋の壁や置き捨てられた車のボディーに、一筆書きめいた人間の横顔と「AK―47」のサインを残す。前者が、都市の近代化によって虐げられた人々を表すとすれば、有名な機関銃の型式番号である後者は、抑圧的、排他的な暴力性を象徴する記号といっていい。描いた作品は解体工事の進行とともに消えてしまうが、今回の日本初個展にも出品されたように、張はその模様を写真に残している。

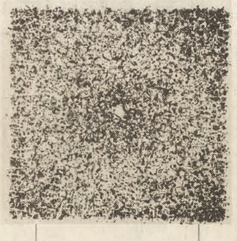
それらにもまして、興味をそそるのは初紹介の絵画だろう。ここでも表現の要素は、例の「AK―47」の記号と人物の顔だ。しかし、解体家屋に描いた時と違い、その記号はびっしりと画面を埋め尽くす。そこに人物の大きな顔が重ね合わされるのだが、これも一筆書きではなく正面から写真調に描かれている。一人はだれもが知る毛沢東、他の男女は解体家屋の住人で、首都から追い払われた出稼ぎ労働者らしい。不可分一体化した記号と像のあわいから、発展の中のきしみが聞こえてきそうである。63年、ハルビン生まれ。

彩色した画面を鋭く切り裂き、謎めいた奥深い空間を作り出したのは、イタリアの画家フォンタナだった。パリに住む韓国の画家・申成熙も、いくぶんかはこの先例を下敷きにしているふしがある。彼もまた、画布を縦横に切り裂いてきたからだ。だが、申がそうしたのは、それから先に独自の構想があったからにほかならない。

切り裂いて細いヒモ状になったカンバスは、次々と結び合わされたのである。表層だけでなく、2層、3層にわたって施されたそれは、無数の結び目が作り出すごつごつとした動きと相乗して、不定形の空間を絶え間なく増殖しているかのようである。フォンタナの切れ込みが視線を画布の背後へと誘ったのに対し、申のそれは逆に手前側へぐいぐいとせり出していく。

たんに手が込んでいるということ以上に、うがたれたはずの空間が、密な物量をたたえて迫ってくるといえば近いだろうか。たっぷりと周囲に余白を取って画面の起伏を強調する作品もあれば、網目がほぼ全面にわたった迫力満点の作品もある。散らばったおびただしい色片の、リズミカルな生動感をみなぎらせた視覚効果も絶妙だ。48年、ソウル生まれ。

張展＝8月2日まで東京・京橋3の7の4、ベイスギャラリー（03・3567・8543）▽申展＝7月29日まで同・京橋3の6の18、INAXギャラリー（03・5250・6530）【三田晴夫】



申成熙の作品

伊東温泉夏劇場
WELCOME to ITO CITY
ワクワクする場面、ドキドキする場面、いやされる場面…今、伊東温泉夏劇場が開幕する！

第1幕 7/26～31 サマーフェスティバル

7/26～31	ワールドバザール
7/26～31	世界の民族音楽
7/26	オープニングセレモニー・フラダンス
7/27	伊東囃子・スティールパン
7/28	よさこいソーズラ
7/29・30	フラメンコ
7/31	浴衣DEコンテスト・ギターデュオ
7/29～31	伊東温泉夢花火・なぎさまつり

第2幕 8/8～10 伊東按針祭

8/7	市民夏の夕べ
8/8	松川-海上灯籠流し
8/8	納涼ハワイアンの夕べ
8/8	按針音楽レストラン
8/9	第25回太鼓合戦
8/8・9	納涼花火
8/10	按針祭式典・按針パレード
8/10	按針祭海の花火大会

第3幕 8/22 伊東温泉箸まつり

8/22	箸供養塔点火・式典
8/22	郷土芸能
8/22	手筒花火
8/22	箸まつり花火大会

伊東温泉 8/1～22 ウォータールミネリア
松川藤の広場、松川河口 17:00～
水・光…幻想の世界へようこそ！

2002夏の花火大会スケジュール
●7/29～31 伊東温泉夢花火●8/1 宇佐美海上灯籠流し・花火●8/8・9 按針祭納涼花火
●8/10 按針祭海の花火大会●8/14 やんもの里の花火大会●8/15 川奈港いるか浜花火大会
●8/22 箸まつり花火大会
伊東温泉は毎週花火で盛り上がる

海水浴場も伊東ならいろいろ選べる！
●伊東オレンジビーチ●宇佐美●川奈●川奈いるか浜●富戸●八幡野●赤沢

伊東温泉宿泊者特別企画
伊豆大島 割引 日帰りセットクーポン
大人7,300円 小人4,200円
（往復運賃・島内観光バス・昼食・入場料・記念品が料金に含まれております。9月1日より料金改訂有り）
毎日出発 伊東→大島（島内観光バス:三原山・公園・リス村コース または三原山・公園・芸能館コース）大島→伊東
※予約制となっておりますので、あらかじめ東海汽船（TEL0557-37-1125）へお申し込み、お問い合わせください。

宿泊・観光のお問合わせは…伊東市観光課・伊東観光協会 〒414-0002 静岡県伊東市湯川1-8-3 Tel.0557-37-6105（代） FAX.0557-37-9006 http://www.itospa.com/